

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
90	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Moderate alcohol drinking and risk of preterm birth 中等度の飲酒と早産のリスクについて	
執筆者	
F Parazzini, L Chatenoud, M Surace, L Tozzi, B Salerio, G Bettoni, G Benzi	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
European Journal of Clinical Nutrition (2003) 57, 1345-1349	
キーワード	
食事、流産、危険因子、疫学	
要 旨	
<p>(目的) 妊娠前及び妊娠中の前・中・後期の間の飲酒と、早産 (妊娠期間相当出生体重または低体重) との関係について検討すること。</p> <p>(方法) イタリアの総合病院や大学病院において、症例対照研究を行った。症例は妊娠37週未満で出産した女性502名、対照は症例と同一の病院において無作為に抽出された日に、正期産 (37週以降出産) で異常のない正常体重児 (イタリアの基準で10～90パーセントイル) を出産した女性1966名であった。飲酒に関する情報は聞き取り調査によって集められた。</p> <p>(結果) 妊娠期間中に1日1～2杯の飲酒では早産のリスク増加はみられなかった。一日3杯以上の飲酒では早産のリスクが増加した (妊娠前期・中期・後期の飲酒のオッズ比は各々2.0、1.8、1.9)。正常体重児、低出生体重児で分けて解析をした場合、早産の低出生体重児のみでリスクが増大した (妊娠前期で1日3杯以上飲酒による早産のオッズ比: 3.6、95%信頼区間 1.3-11.1)。正常体重出生児を出産した女性における妊娠前期1日3杯以上の飲酒については、早産のオッズ比は統計学的に有意な上昇をみなかった (オッズ比 1.4、95%信頼区間 0.5-3.7)。</p> <p>(結論) 妊娠期間中に1日3杯以上の飲酒をする女性にて早産のリスクが増大することがわかった。</p>	